

# いたばし・いきものアルバム(2022)

重要種の指定状況に関しては、東京都レッドリスト(本土部) 2020年版を基に記載をしております。

## 鳥類



ハクセキレイ

- タイトル:ハクセキレイ
- 分類:スズメ目セキレイ科
- 学名:*Motacilla alba lugens*
- 渡り区分:留鳥(漂鳥)
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川生物生態園
- 撮影日:2022年6月19日

### ハクセキレイ

全長 21cm ほどで河川や川辺などに生息しています。白と黒のコントラストがはっきりしており、尾を振りながら歩き飛ぶ姿が非常に美しい鳥です。板橋区では平成 14 年から「区の鳥」として指定されています。



ツバメ

- タイトル:ツバメ
- 生物分類:スズメ目ツバメ科
- 学名:*Hirundo rustica*
- 渡り区分:渡鳥(夏鳥)
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川生物生態園
- 撮影日 2022年6月10日

### ツバメ

春の訪れとともに日本各地に渡ってくるツバメは、「春告鳥」と呼ばれています。全長は 17cm ほどで、飛んでいる昆虫などを空中で捕食します。民家の軒先など人が住む環境と同じ場所で繁殖する傾向があります。



オオヨシキリ

- タイトル:オオヨシキリ
- 生物分類:スズメ目ヨシキリ科
- 学名:*Acrocephalus orientalis*
- 渡り区分:渡鳥(夏鳥)
- 重要種の指定状況:絶滅危惧 I A 類(区部)
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川生物生態園
- 撮影日 2022年6月12日

### オオヨシキリ

全長が 18cm ほどで、上面が淡褐色、下面が黄白色、口元にひげが生えています。大きな声で「ギョギョシ」と鳴き、夏期に繁殖を行い、冬期に熱帯地域へと渡ります。



モズ

- タイトル:モズ
- 分類:スズメ目モズ科
- 学名:*Lanius bucephalus*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:絶滅危惧 I A 類(区部)
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川生物生態園
- 撮影日:2022年7月7日

### モズ

モズは「百舌鳥」と書き、さまざまな鳥のさえずりを組み込んで複雑に鳴く力を持っています。小枝やトゲなどにバッタやカエルなどの獲物を串刺しにする習性があり、これを「モズのはやにえ」と呼んでおります。

# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 鳥類



ガビチョウ

- タイトル:ガビチョウ
- 生物分類:スズメ目チメドリ科
- 学名: *Garrulax canorus*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川河川敷(生態園)
- 撮影日 2022年7月7日

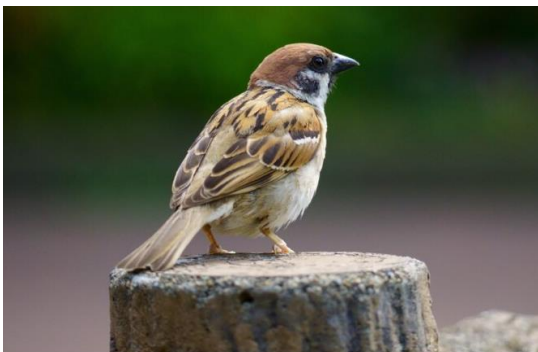
ガビチョウ  
飼養、栽培、保管、運搬、輸入等が規制されている特定外来生物に指定されています。地上採食性で、よく地上を走り高くは飛びません。昆虫や果物を食べ丘陵地、平野部の低木林に生息します。



メジロ

- タイトル:メジロ
- 生物分類:スズメ目メジロ科
- 学名: *Zosterops japonicus*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:なを 様
- 撮影場所:双葉町
- 撮影日 2022年3月14日

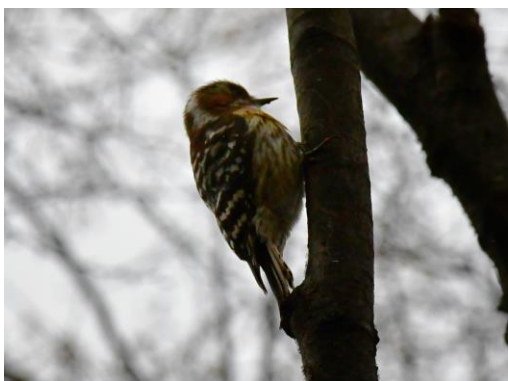
メジロ  
春を告げる鳥として親しまれていたこともあり、メジロとウグイスは混同されがちな鳥です。ウグイスは灰褐色であるのに対し、メジロは緑色の毛色をしています。



スズメ

- タイトル:スズメ
- 生物分類:スズメ目スズメ科
- 学名: *Passer montanus*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:ねこちゃん 様
- 撮影場所:見次公園
- 撮影日 2022年6月9日

スズメ  
人家のある場所には全国的に生息しています。早春から夏にかけてが営巣期で、非繁殖期には雑木林や竹藪に群れをなしてねぐらをとります。イネ科を主とする種子食ですが、昆虫類も食べます。



コゲラ

- タイトル:ニリンソウの上を見たらコゲラ
- 生物分類:キツツキ目キツツキ科
- 学名: *Dendrocopos kizuki*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:なを 様
- 撮影場所:赤塚公園(大門地区)
- 撮影日 2022年4月3日

コゲラ  
全長15cmで日本に生息するキツツキとしては最も小さい種です。カミキリの幼虫など木の幹の中にいる虫を主食としており、「ギー」という鳴き声は独特でわかりやすいです。

# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 鳥類



### アオゲラ

- タイトル:5月末にアオゲラを観察しました。
- 生物分類:キツキ目キツキ科
- 学名:*Picus awokera*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:絶滅危惧 I B 類(区部)
- 撮影者:板橋の浩 様
- 撮影場所:茂呂山公園
- 撮影日 2022 年 5 月 30 日

#### アオゲラ

平地から山地にかけての森林に生息と言われていています。上面が黄緑色で、腹には多数の腹班があります。木をつついて音を出す行動をドラミングといい、これはさえずりを持たない鳥の鳴き声に変わる繁殖行動と言われていています。



### ササゴイ

- タイトル:ササゴイ
- 分類:ペリカン目サギ科
- 学名:*Butorides striatus*
- 渡り区分:渡鳥(夏鳥)
- 重要種の指定状況:絶滅危惧 I A 類(区部)
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川河川敷(生態園)
- 撮影日:2022 年 7 月 3 日

#### ササゴイ

明け方と夕方になると活発に活動する薄明薄暮性の鳥で河川や湿原などに生息しています。主に 6 月~7 月頃に夏鳥として渡来します。ハトよりは大きく、ゴイサギよりは小さいのが特徴です。



### ゴイサギ

- タイトル:ゴイサギ
- 生物分類:ペリカン目サギ科
- 学名:*Nycticorax nycticorax*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:絶滅危惧 II 類(区部)
- 撮影者:トリコ 様
- 撮影場所:氷川釣り堀公園
- 撮影日 2022 年 6 月 16 日

#### ゴイサギ

「夜鳥」の異名を持つ夜行性の鳥です。昼間は林の中でじっとしており、夕方から河川や池などで魚を捕ります。体の配色がペンギンに似ているのが特徴です。



### カワセミ

- タイトル:カワセミの串団子
- 分類:ブッポウソウ目カワセミ科
- 学名:*Alcedo atthis*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:絶滅危惧 II 類(区部)
- 撮影者:Y.MATSUMURA 様
- 撮影場所:石神井川
- 撮影日:2022 年 7 月 20 日

#### カワセミ

名前の由来は「川に棲むセミ」で、全長 17cm ほどで小さい体に比べて大きなクチバシを持っています。カワセミの背中は青色に見えていますが、この青色は色素によるものではなく、羽毛にある微細構造により光の加減で青く見えているものです。

# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 鳥類



トビ

- タイトル:トビ
- 生物分類:タカ目タカ科
- 学名: *Milvus migrans*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:準絶滅危惧(区部)
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川河川敷(生態園)
- 撮影日 2022年8月7日

トビ  
全長 60cm ほどで、翼を広げるとメスは160cmを超えていると言われています。日本に生息しているもっとも身近な猛禽類と言われています。あまり積極的な狩りは行わず、弱ったものや死んだものを食べるが多いと言われています。



カワウ

- タイトル:鵜
- 分類:カツオドリ目ウ科
- 学名: *Phalacrocorax carbo*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:ひろひろ 様
- 撮影場所:石神井川 中根橋付近
- 撮影日:2022年5月22日

カワウ  
大型で全身がほとんど黒色のウ類であり、河川や湖沼などに生息します。くちばしの先は挟んだ魚を逃がさないように鉤型になっています。飛び立つときには助走が必要で、その場合は両足をそろえて跳ねています。



カルガモ

- タイトル:親子のカルガモ
- 生物分類:カモ目カモ科
- 学名: *Anas zonorhyncha*
- 渡り区分:留鳥
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:ねこちゃん 様
- 撮影場所:見次公園 様
- 撮影日 2022年6月9日

カルガモ  
食性は主に植物食で植物の葉や種子などを食べますが、ゲンゴロウなどの水生昆虫やタニシなどの貝類、ワカサギなどの魚類も食べることが知られています。



ワカケホンセイインコ

- タイトル:お花 食い散らかし!
- 分類:オウム目インコ科
- 学名: *Psittacula krameri manillensis*
- 渡り区分:外来種
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:しゆか 様
- 撮影場所:前野町 4 丁目常楽院の南東 駐車場
- 撮影日:2022年3月2日
- コメント:グリーンのインコが 7~8 羽で、ボリボリ花を食い散らかしていました。

ワカケホンセイインコ  
ペットとして輸入したものが逃げ出したと考えられています。全身 40cm ほどで尾が長く、全身黄緑色の個体です。東京都では天敵となる個体がいないため繁殖している状況です。

# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 昆虫類



### ヤマトシジミ

- タイトル: ヤマトシジミ
- 生物分類: チョウ目シジミチョウ科
- 学名: *Zizeeria maha*
- 重要種の指定状況: -
- 撮影者: 雄信内 様
- 撮影場所: 自宅
- 撮影日 2022 年 8 月 3 日

#### ヤマトシジミ

幼虫の食草であるカタバミが多くみられる平地の道端や耕作地周辺に生息します。雌雄とも季節変異を有し、季節により翅の色模様が連続的な変化をします。成虫は背の低い植物の黄色の花を吸蜜種として好みます。



### ナミアゲハ

- タイトル: ナミアゲハ
- 生物分類: チョウ目アゲハチョウ科
- 学名: *Papilio xuthus*
- 重要種の指定状況: -
- 撮影者: ハクちゃん応援隊 様
- 撮影場所: 西台
- 撮影日 2022 年 7 月 9 日

#### ナミアゲハ

成虫の前翅長は 4~6cm ほどで、春型の個体と夏型の個体があります。春型の個体は夏型の個体よりも小さいとされています。ナミアゲハの雄雌は腹部先端の形で区別することが可能ですが、外見での判別は難しいです。



### オオミズアオ

- タイトル: オオミズアオ
- 生物分類: チョウ目ヤママユガ科
- 学名: *Actias aliena*
- 重要種の指定状況: 絶滅危惧Ⅱ類 (区部)
- 撮影者: T.SAKUMA 様
- 撮影場所: 三園幼稚園横歩道(三園 1 丁目)
- 撮影日 2022 年 8 月 24 日

#### オオミズアオ

大型の青白色をした蛾で前翅は三角形に尖り、後翅は後方に伸びて尾状になっています。4~8 月頃にかけて地上に出現し、蛹の状態越冬します。成虫になると口がなくなり食事ができなくなるため、1 週間ほどの命とされています。



### ルリタテハ

- タイトル: ルリタテハ
- 生物分類: チョウ目タテハチョウ科
- 学名: *Kaniska canace*
- 重要種の指定状況: -
- 撮影者: T.SAKUMA 様
- 撮影場所: 旧白子川緑道(三園 1 丁目)
- 撮影日 2020 年 8 月 3 日

#### ルリタテハ

雑木林や公園等に生息し、公園や緑地などに現われます。成虫はクヌギなどの樹液、枯れ葉の腐ったもの、幼虫はサルトリイバラやホトトギスなどの葉を食べます。

# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 昆虫類



### ツマグロヒョウモン

- タイトル:ツマグロヒョウモン
- 生物分類:チョウ目タテハチョウ科
- 学名:*Argyreus hyperbius*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:meiさん 様
- 撮影場所:大原町
- 撮影日 2021年8月15日

ツマグロヒョウモン  
雌雄で翅の模様が異なり、雌は前翅の端が黒く白い帯が横断しており、全面に黒色の斑点が散らばっています。幼虫はスマレやパンジーを食べ、成虫はコスモスやセイタカアワダチソウなどの花の蜜を吸います。



### オオスカシバ

- タイトル:オオスカシバ
- 生物分類:チョウ目スズメガ科
- 学名:*Cephonodes hylas*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SAKUMA 様
- 撮影場所:赤塚溜池公園、民間売店の駐車場
- 撮影日 2021年10月10日

オオスカシバ  
翅が透明な蛾で、クチナシやアカミズキなどの植物を食草とします。蛹化が近づくと変色し、地表に降りて落葉や土を綴りその中で蛹になります。羽化後は灰白色の鱗粉が翅を覆っていますが、羽ばたくと透明な翅になります。



### ゴマダラカミキリ

- タイトル:ゴマダラカミキリ
- 生物分類:コウチュウ目カミキリムシ科
- 学名:*Anoplophora malasiaca*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SAKUMA 様
- 撮影場所:旧白子川緑道(三園1丁目)
- 撮影日 2020年7月16日

ゴマダラカミキリ  
街路樹、庭木、公園樹木などで観察が可能です。成虫の体長は2.5cm~3.5cmほどで、前翅は光沢のある黒色に白い斑点が並んでいます。成虫は6月~8月に出現し、柑橘類の害虫として知られています。



### クワカミキリ

- タイトル:クワカミキリ
- 生物分類:コウチュウ目カミキリムシ科
- 学名:*Apriona japonica Thomson*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川河川敷(生態園)
- 撮影日 2022年7月7日

クワカミキリ  
古くからクワの害虫として有名であり、他にもイチジク、ビワ、ヤナギ、リンゴなどの広葉樹の生きた木を食べる害虫です。成虫は6~9月にかけて現れ、樹皮に馬蹄形の特徴的なかみ傷をつけてから、その中に卵を埋め込むように産卵します。

# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 昆虫類



### カブトムシ

- タイトル:カブトムシ
- 生物分類:コウチュウ目コガネムシ科
- 学名: *Trypoxylus dichotomus*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:S.SHIGAKI 様
- 撮影場所:都立赤塚公園
- 撮影日 2022年7月31日

カブトムシ  
かつて日本最大の甲虫とされていましたが、現在は2番目の甲虫です(1番目はヤンバルテナガコガネ)。活動時期は6~8月で、主に広葉樹樹幹の垂直面で活動し、幼虫はたい肥や腐葉土などで見つかります。



### コクワガタ

- タイトル:コクワガタ
- 生物分類:コウチュウ目クワガタムシ科
- 学名: *Dorcus rectus*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SAKUMA 様
- 撮影場所:旧白子川緑道(三園1丁目)
- 撮影日 2019年9月6日

コクワガタ  
クヌギやコナラなどで構成される雑木林で観察が可能です。成虫はクヌギなどの樹液を食べ、幼虫は朽木を食べます。体長はオスが15~53mmほど、メスが20~33mmほどです。



### クマゼミ

- タイトル:クマゼミ
- 生物分類:カメムシ目セミ科
- 学名: *Cryptotympana facialis*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川河川敷(生態園)
- 撮影日 2022年7月30日

クマゼミ  
翅は透明で、付け根付近の翅脈は緑色になっています。成虫が発生するのは7月上旬から9月上旬にかけてで、サクラやケヤキなどの広葉樹に生息します。



### アブラゼミ

- タイトル:アブラゼミの羽化
- 生物分類:カメムシ目セミ科
- 学名: *Graptopsaltria nigrofuscata*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:meiさん 様
- 撮影場所:板橋区立美術館の前の梅林のそば
- 撮影日 2020年7月26日

アブラゼミ  
2~4年ほど幼虫で過ごし、成虫は主に7月から9月にかけて桜やリンゴなどバラ科樹木で観察されます。成虫も昆虫も木に口吻を差し込んで樹液を吸います。

# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 植物



### オニタビラコ

- タイトル:オニタビラコ
- 生物分類:キク目キク科
- 学名: *Youngia japonica*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川河川敷(生態園)
- 撮影日 2022年8月2日

オニタビラコ  
最近の研究によりオニタビラコは「アカオニタビラコ」と「アオオニタビラコ」の2種に分けられるようになり、赤い茎で花茎が1本のものがアカオニタビラコで、花茎が何本もあるものがアオオニタビラコとされています。



### ヤブガラシ

- タイトル:ヤブガラシ
- 生物分類:ブドウ目ブドウ科
- 学名: *Cayratia japonica*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:T.SUZUKI 様
- 撮影場所:荒川河川敷(生態園)
- 撮影日 2022年8月4日

ヤブガラシ  
成長が早く、ほかの植物に絡みつきながらツルをのぼすため、巻きつかれ植物はツルに覆われて枯れてしまいます。6~8月頃にオレンジやピンクの小さな花を咲かせます。



### カラスウリ

- タイトル:カラスウリ
- 生物分類:ウリ目ウリ科
- 学名: *Trichosanthes cucumeroides*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:meiさん 様
- 撮影場所:板橋区立美術館の前の梅林
- 撮影日 2020年7月26日

カラスウリ  
4~6月にかけて塊根から発芽し、7~9月にかけての日没後に開花します。カラスウリの花筒は非常に長く、スズメガのような長い口吻を持った蛾でないと花の奥の蜜に到達することができません。夜行性の蛾を引き寄せて受粉するために、目立った特徴の花になっています。



### ヘクソカズラ

- タイトル:ヘクソカズラ
- 生物分類:リンドウ目アカネ科
- 学名: *Paederia scandens*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:meiさん 様
- 撮影場所:蓮沼町 トプコン前
- 撮影日 2022年8月7日

ヘクソカズラ  
葉や茎などをつぶすと強い悪臭を放つことから名づけられています。つる性植物のため、他の植物やフェンスなどに絡まって長く伸びていきます。悪臭は食害を受ける害虫などから身を守るために発せられます。



# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 両生類



### ヒキガエル

- タイトル:ヒキガエルの発見
- 生物分類:無尾目ヒキガエル科
- 学名: *Bufo*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:K.TAKENAKA 様
- 撮影場所:大原町
- 撮影日 2022年7月19日

#### ヒキガエル

日本産のカエルでは最大で、胴部と四肢の腹面には黒褐色の斑紋が腹側に並んでいます。3月～4月にかけて池や湿地などに産卵し、卵は6～7日で孵化します。

## 甲殻類



### クロベンケイガニ

- タイトル:クロベンケイガニ
- 生物分類:十脚目ベンケイガニ科
- 学名: *Orisarma dehaani*
- 重要種の指定状況:—
- 撮影者:S.SHIGAKI 様
- 撮影場所:生物生態園
- 撮影日 2022年7月23日

#### クロベンケイガニ

体色は茶褐色で脚に3～4mmほどの黒い剛毛が生えています。河口付近の川岸や草原などで観察されます。主に夜間に活動し、雑食性で死んだ魚や貝を食べます。

## 爬虫類



### スッポン

- タイトル:白子川のスッポン
- 生物分類:カメ目スッポン科
- 学名: *Pelodiscus sinensis*
- 重要種の指定状況:絶滅危惧Ⅰ類(区部)
- 撮影者:T.SAKUMA 様
- 撮影場所:白子川(溝下橋～大成橋)
- 撮影日 2022年4月12日

#### ニホンスッポン

他のカメと異なり甲羅の表面が柔らかくなっています。本州以南に生息するが、養殖場から逃亡した個体と自然個体群の両方が生息するため正確な自然分布については不明な点が多いです。

自然環境保全係では河川の生物調査を行っております。  
令和3年度は石神井川、令和4年度は白子川の調査を行いました。  
詳細についてはホームページでご確認ください。



# いたばし・いきものアルバム(2022)

## 爬虫類



アオダイショウ

- タイトル:アオダイショウ
- 生物分類:有鱗目ナミヘビ科
- 学名: *Elaphe climacophora*
- 重要種の指定状況:準絶滅危惧(区部)
- 撮影者:ねこちゃん 様
- 撮影場所:荒川生態園
- 撮影日 2022年8月12日

### アオダイショウ

全長 100cm~200cm の無毒蛇で、成体はあおみがかかった褐色、草色で胴に不明瞭な縦上模様をもつことがあります。7~8月に産卵の時期を迎え、4~17個ほど産卵するとされています。樹の上にいる傾向が強く、家屋に侵入することもあります。

### 重要種の指定状況と基本概念について

カテゴリ名称	基本概念
絶滅危惧Ⅰ類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの